

1)ご使用前に



ゴムキャップの紛失を防ぐため、付属のゴムキャップ紐で本体とゴムキャップをつないでください。  
ご使用前にクリーニング、キャリブレーション(ユーザー校正)の実施をお願いいたします。

本体底の電池ボックスの蓋を開け、電池を入れてください。

使用できる電池 単3形×6本

マンガン電池、アルカリ電池、ニッケル水素電池



①



②



③

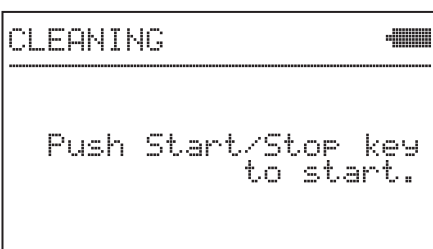
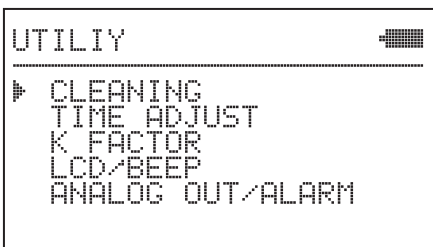
2)クリーニング

※クリーニングは周囲雰囲気が清浄な場所で行ってください。

粉じん計のここにゴムキャップを取り付けます。



ゴムキャップは吸引口に取り付けます。  
感度チェックつまみは[ZERO]側にしてください。



- ① [POWER]を押して、電源を入れます。
- ② [MENU]キーを押して、メニュー画面を表示します。
- ③ [▼]キー(または[▲]キー)を押してカーソルを”UTILITY”に合わせ、[SET]キーを押してユーティリティ画面を表示します。
- ④ カーソルが”CLEANING”を指しているのを確認して、[SET]キーを押すとクリーニング画面になります。
- ⑤ [START/STOP]キーを押すとクリーニングを開始します。
- ⑥ 5分を目安にクリーニングを行ってください。  
※クリーニングの所要時間は使用環境によって異なります。
- ⑦ [START/STOP]キーを押すとクリーニングを終了します。

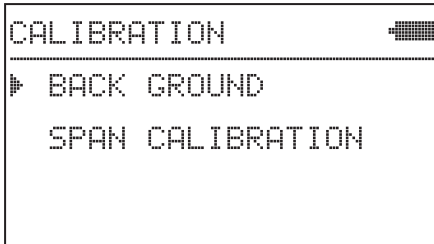
### 3)キャリブレーション(ユーザー校正)

※校正を行うときは本体が十分周囲環境温度になじんだ状態(20分以上)から行ってください。

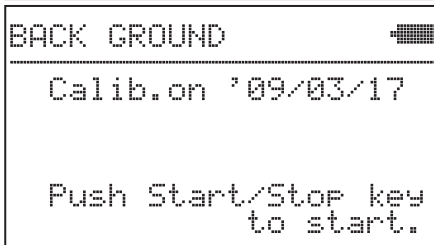
※校正は周囲雰囲気が清浄な場所で行ってください。



ゴムキャップは吸引口に取り付けます。  
感度チェックつまみは[ZERO]側にしてください。



[MENU]キーを押して、メニュー画面を表示します。[▼]キー(または[▲]キー)を押してカーソルを”CALIBRATION”に合わせ、[SET]キーを押してキャリブレーション画面を表示します。[BACK GROUND]にカーソルがあるのを確認して[SET]キーを押します。



[START/STOP]キーで、測定を開始します。



6秒間測定を行います。測定中は、バックグラウンドの瞬時値(CPM)が表示されます。  
画面の下部に、測定時間の残り時間を表示します。

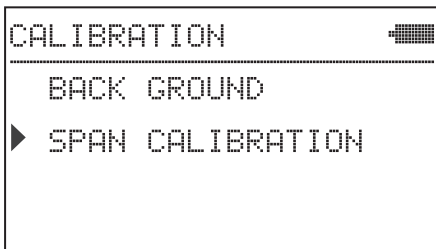


測定が終わると、その時点でのバックグラウンドの平均値(CPM)が表示されます。  
[▲][▼]キーでカーソルを移動し、[SET]キーで決定します。バックグラウンド値が約2秒間表示され、その後、キャリブレーション画面に戻ります。

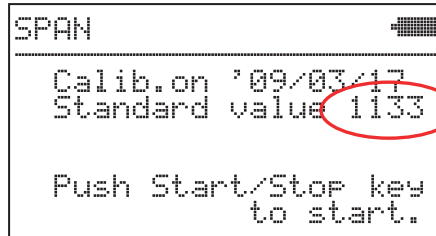
### <感度調整(SPAN)>



レバーを「FULL」側にしてください。



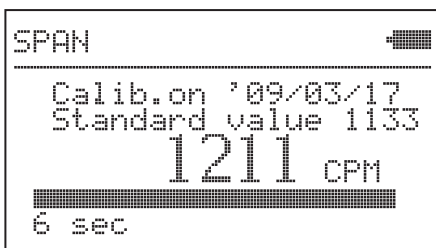
[▼]キーでソルを「SPAN CALIBRATION」にカーソルを移動させ、[SET]キーを押します。



画面に、前回キャリブレーションを行った日付と標準カウント値が表示されます。

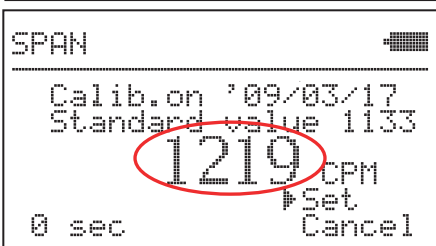
[START/STOP]キーを押します。

★(財)ビル管理教育センターでの較正を受けられたお客様はこの標準カウント値はビル管理教育センターの粉じん計較正済票の「標準散乱版板値」と同じ値となります。



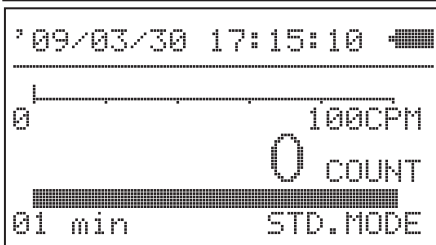
6秒間、標準カウント値(CPM)の瞬時値が表示されます。

画面の下部に、測定時間の残り時間を表示します。



6秒後、その時点での標準カウント値(CPM)が表示されます。

[▲][▼]キーでカーソルを移動し、[SET]キーで決定します。調整後の標準カウント値が約2秒間表示され、その後、キャリブレーション画面に戻ります。



[MENU]キーを2回押して、初期の測定画面に戻ります。

#### 4)測定



①ゴムキャップをクリーニング空気口に取り付けます。感度チェックつまみを[ZERO]側にします。

測定時間:「出荷時は 60 秒測定に設定しています」

※出荷時の質量濃度換算係数の設定は、ビル管理向けに値付けを行っております。係数設定値は1.3で、校正粒子に対して1CPM=0.0013mg/m3となります。

※例 K=1.3の場合 : 100CPM → 0.13mg/m3

K=2.0の場合 : 100CPM → 0.20mg/m3

②[START/STOP]キーを押すと測定が始まり、画面左下の数字(秒数)がカウントダウンされます。

③測定終了後、[mg/m3]キーを押すとカウント値から質量濃度 mg/m3 へ換算されます。

④次の測定の際は、①に戻ってください。

#### その他の操作

●測定時間の設定(出荷時は 60 秒に設定しています。)

①「MENU」→「MODE」→「STD.SET」を選択します。

②測定時間を(6,10,30 秒,1,2,3,5,10 分から選択)を設定します。

## 故障かなと思ったら。

症状	考えられる原因／処置
電源スイッチを ON にしても画面表示がでない、またはすぐに OFF になってしまう。	電池の場合：電池が消耗しています。電源を切り、電池の交換を行ってください。
	AC アダプタの場合：専用のものをご使用ですか？専用の AC アダプタをご使用ください。
電池を新品と交換しても、画面表示がでない。	いずれかの電池の極性が逆になっていませんか？電池の方向が間違っていないか確認してください。
電池使用時に消耗が早い。	種類の異なる電池を使用していませんか？消耗した電池と新しい電池を混在して使用していませんか？
カウント値が0のままである。	インレットにゴムキャップをしたままになっていませんか？ゴムキャップを外し、外したゴムキャップをクリーニング空気口に挿入して測定を行ってください。
	排気口がふさがっていませんか？排気口をふさいでいる物を取り除いてください。
カウント値が低すぎる。	ゴムキャップがクリーニング空気口に挿入されていますか？正しく挿入してから測定を行ってください。
	感度確認時のカウント値を標準カウント数と比較してください。5%以上低い場合は、キャリブレーションで、感度調整を行ってください。
カウント値が高すぎる。	感度チェックつまみが“FULL”側になったままになっていませんか？正しく“ZERO”側に戻してください。
	感度確認時のカウント値を標準カウント数と比較してください。5%以上高い場合は、キャリブレーションで、感度調整を行ってください。
ゼロが安定しない。	インレットにゴムキャップがされていない、または十分に挿入されていない。正しくゴムキャップを装着してください。
	フィルタが目詰まりしていませんか？新しいフィルタに交換してください。
	光学系セル内が汚れていませんか？カーボンや樹脂など比較的軽い粒子については粒子が光学系内部に入り、ゼロ点上昇の原因になりますのでご注意ください。クリーニングを充分(10分以上)に行ってください。それでも安定しない場合は、分解洗浄が必要です。販売店に修理をご依頼ください。
	使用環境温度範囲外で、使用してはいませんか？使用温度範囲は、5～40℃、湿度95%RH 以下です。
ゼロ調整が出来ない。	感度チェックつまみは“ZERO”側になっていますか？十分に回して“ZERO”の位置まで戻してください。
	使用環境温度範囲外で、使用してはいませんか？使用温度範囲は、5～40℃、湿度95%RH 以下です。
標準カウント数より値が低い。再現性が悪い。	感度チェックつまみは“FULL”側になっていますか？十分に回して“FULL”の位置まで戻してください。
	使用環境温度範囲外で、使用してはいませんか？使用温度範囲は、5～40℃、湿度95%RH 以下です。
感度調整が出来ない。	使用環境温度範囲外で、使用してはいませんか？使用温度範囲は、5～40℃、湿度95%RH 以下です。
	規定の感度調整範囲を越えているか、光源が劣化している恐れがあります。販売店に修理をご依頼ください。
ゼロ調整が出来ない。 (BACK GROUND)	規定のゼロ調整範囲を越えている。 ゼロ調整範囲が、メーカー出荷時から±20カウントを越えている場合は、キャリブレーションエラーとなります。販売店に修理をご依頼ください。
感度調整が出来ない。 (SPAN CALIBRATION)	規定の感度調整範囲を越えている。感度調整範囲が、メーカー出荷時から±20%を越えている場合は、キャリブレーションエラーとなります。販売店に修理をご依頼ください。
	標準散乱板の不良か、光源が劣化している恐れがあります。販売店に修理をご依頼ください。